

機関番号：45412  
 研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2008～2010  
 課題番号：20500661  
 研究課題名（和文） 超高齢化時代のコミュニティにおける生活のサステナビリティをめぐる総合的な研究  
 研究課題名（英文） A Research Concerning on the Sustainable Community in the Age Of the Extremely Ageing Society  
 研究代表者 加納 三千子  
 （KANO MICHIKO）  
 福山市立女子短期大学・名誉教授  
 研究者番号：40087929

## 研究成果の概要（和文）：

高齢者の生活の自立と労働をめぐる問題をコミュニティにおける生活の自立システムを構築するという観点から研究を行い、次のような成果が得られた。コミュニティにおける生活のサステナビリティの構築には、①多様な人と連帯できる労働の場の確保をめざした地域の自立が重要である。②持続的再生産可能な地域資源作りとそれを活かしたコミュニティの再生が重要である。③福山市ではその一つとして市街地農業の活性化が重要な役割を担っていると考えられる。

## 研究成果の概要（英文）：

The resulting point acquired in this research is the following: it is very important to build self-supporting system for everyday work and life of the aged people in the neighborhood community, that is, 'self-sustainability' and 'communality' of the people living there. We research and discuss a case of the Fukuyama City suburbs, where the population is decreasing and the aged people are rapidly increasing. Key word for regeneration of aging community is the 'work' of aged people who have retired from their business, as human resources to reconstruct the neighborhood community. We can see many experiments for reconstruction of community in Japan and UK. We analyzed them and find some kinds of patterns to reconstruct the aging neighborhood community.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

## 研究分野：生活科学

科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般

キーワード：高齢者生活、地域社会の自立、生活の社会化、協働

## 1. 研究開始当初の背景

## (1) 社会的背景

これまで、高齢者の生活のサステナビリティをめぐる研究は、「家族」の中で行われるものという前提でなされてきた。しかし「家

族」機能が大きく変化した今日、高齢者の生活のサステナビリティはコミュニティで維持することが必要になってきている。

## (2) これまでの研究成果をふまえた背景

福山市立女子短期大学を中心とした科学研

究費による三つの共同研究によりえられた知見をふまえて研究を進めようとするものである。

- ①「プロダクティブ・エイジングの思想史的研究」(2003, 2004年度、研究代表者・安川悦子)により得られた知見は、高齢者の健康と自立には、多様な形態の労働がかかわっており、「生涯現役」の理念がエイジング問題についてもっとも基本であることであった。
- ②「高齢者の生活のサステナビリティに関する総合的な研究」(2004, 2005年度、研究代表者・加納三千子)で得られた知見は、福山市の団地や過疎地の高齢者の生活の実態調査から、これまで家族の中で行われてきた高齢者の自立した生活に必要な家事労働、とりわけ「食」と「ケア」が、コミュニティ・レベルで協働することが必要になっていることであった。
- ③「高齢者の自立と支えあいに関する総合的な研究」(2006, 2007年度、研究代表者・加納三千子)で得られた知見は、日本とイギリスやアメリカのコミュニティで行われている生活の支えあいの具体的な実践例を調査し、超高齢化社会を迎えたコミュニティでの生活のサステナビリティを構築することが自立した高齢者の生活の重要な要件であるということであった。

## 2. 研究の目的

超高齢化時代において、高齢者の自立した生活をコミュニティにおいてどのように支えていくのか、つまりコミュニティにおける高齢者の生活のサステナビリティのあり方をめぐる実証研究である。

福山市立女子短期大学を中心とした科学研究費による共同研究より得られた知見を踏まえて、本研究では、高齢者の自立した生活を支えるためのコミュニティのサステナビリティを構築するにあたって必要な要件はどのようなものか、またそうした要件を備えたコミュニティをどのように再構築していくのかという問題について、理論的・実証的に研究することを目的としている。

## 3. 研究の方法

高齢者の生活の自立と労働をめぐる問題をコミュニティにおける生活の自立システムを構築するという観点から、1. 理論的研究を整理総合し、2. 国の内外でのさまざまな実践例を調査し、3. コミュニティにおいて高齢者の生活の自立システムをつくりだす理論的実践的指針を研究する。そのために以下のような計画・分担で研究を行う。

### (1) 文献調査及び文献目録の作成

- ①日本や欧米のエイジングおよび家事労働の社会化をめぐる文献

- ②協働の社会システムをめぐる思想や理論の文献
- ③身体表現および「労働の喜び」に関する理論や実践に関する文献
- ④コンパクト・シティおよびクリエイティブ・シティに関わる文献
  - (2) コミュニティにおける生活のサステナビリティにかかわる国内を中心とした実践例の調査
    - ①「食」を中心とした協働の実践例の調査
      - ・広島県東広島市「ひだまりの家」
      - ・東京都立川市「高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会」など
    - ②「ケア(生き甲斐としての労働)」をめぐる協働の実践例の調査
      - ・東京葛飾区「アモール東和」など
    - ③身体表現を中心にして高齢者のクリエイティビティをはかる実践例の調査
      - ・島根県松江市「劇団あしぶえ」
    - ④農業を軸にした地域の自立を考える取り組みの調査
      - ・東京都練馬区 体験農園「大泉 風のがっこう」
      - ・兵庫県豊岡市「コウノトリと共にすめるまちづくり」
      - ・広島県東広島市「農事組合法人 ファーム・おだ」など
    - (3) ヨーロッパにおけるコミュニティのサステナビリティを作り出す実践例の調査
      - ・アカウント3
      - ・シェア・コミュニティ
      - ・カムデン・ソサエティ など
    - (4) コミュニティのサステナビリティについての実践を整理するために、国内の多様な専門家にヒアリングと議論を行う
      - ①財政学などの専門家
        - ・森靖雄・愛知東邦大学地域創造研究所顧問
        - ・植田和弘・京都大学大学院経済学研究科教授
        - ・金子勝・慶應義塾大学経済学部教授
        - ・内橋克人・経済評論家
        - など
      - ②協働のまちづくり等にかかわる自治体職員
        - ・広島県福山市協働のまちづくり課
        - ・愛媛県今治市地産地消課
        - ・兵庫県豊岡市コウノトリ共生課 など

## 4. 研究成果

高齢者の生活の自立と労働をめぐる問題をコミュニティにおける生活の自立システムを構築するという観点から、①理論的研究を整理総合し、②国の内外でのさまざまな実践例を調査し、③コミュニティにおいて高齢者の生活の自立システムをつくりだす理論的実践的指針を研究し、以下のような成果が

得られた。

(1) 国内外の支え合いと自立をめざした多様な取り組みには、日々の暮らしを支えるものから、地域に棲む生き物も含めた共生可能な地域作りをめざしたものでがみられた。

これらから、コミュニティにおける生活のサステナビリティの構築には地域の自立が重要であり、多様な人と連帯できる労働の場の確保をめざすことが重要であることが明らかになった。

(2) またこれらの取り組み例は、持続的再生産可能な地域資源作りとそれを活かしたコミュニティの再生を進めることでコミュニティにおける生活のサステナビリティをめざしていた。

福山市ではその一つとして市街地農業の活性化が重要な役割を担っていると考えられる。

(3) こうした取り組みを可能にする背景として、一つは、国の施策が市街化区域内農地を消滅させる方向(1968・都市計画法)から食料の生産の他にも様々な効用があることを認め(1999・食料・農業・農村基本法)、まちづくりに活かす方向で捉えられるようになってきた(2006・住生活基本法、2009・国土交通省「都市政策の基本的な課題と方向検討小委員会報告」など)ことがある。

今一つは国内外で農を軸とした町づくりの取り組みが行われるようになってきていることがある。例えばアメリカのニューヨークやサンフランシスコを中心に、市民が進める緑のまちづくりすなわちコミュニティガーデンの取り組みが行われている。

日本においても休耕田を活用したり都市における農の役割を見直したコミュニティ菜園や体験農園の取り組みが進められている状況がある。

(4) 以上のような点をふまえ、高齢者の持つ農業知識や技術を活かし、コミュニティ再生を視野に入れた体験農園型市民農園(コミュニティ・ガーデン)の振興は、福山市のコミュニティにおける高齢者の生活の自立システムの一つになると考えた。

(5) 本研究の成果の特徴は、農を軸としたコミュニティ再生の取り組みを、高齢者の自立した生活とのかかわりでとらえようとしたところにある。

(6) 今後は、①これまで進めてきた国内外の自立と支え合いの取り組み例を再度整理し直したい。②コミュニティにおける高齢者の生活のサステナビリティをめざして、コミュニティ・ガーデン実施の課題を明らかにし、その取り組みを具体的に進めていきたい。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

〔雑誌論文〕(計 8件)

- ①加納三千子、牧田幸文、西川龍也、藤井輝明、宮本賢作、保護から自立へ～イギリスの社会的企業の取り組みから～、福山市立女子短期大学研究教育公開センター年報、査読有、8、2011、31-40
- ②西川龍也、町づくりにおける「神の視点」と「ひとの視点」、福山市立大学開学記念論集、都市をデザインする、査読無、2011、179-196
- ③藤井輝明、市街地農地と都市農業の諸問題～福山市の場合～、福山市立大学開学記念論集、都市をデザインする、査読無、2011、197-212
- ④西川龍也、福山都市圏に対する構造分析について、福山市立女子短期大学研究教育公開センター年報、査読有、7、2010、37-44
- ⑤加納三千子、藤井輝明、西川龍也、地域社会のサステナビリティを考える～豊岡におけるコウノトリと共生するまちづくりに学ぶ、福山市立女子短期大学研究教育公開センター年報、査読有、7、2010、57-64
- ⑥西川龍也、福山におけるコンパクトシティへの考察 その1～福山の市街地空間に関する構造分析～、福山市立女子短期大学紀要、査読有、36、2009、73-81
- ⑦加納三千子、吉川淳子、平本弘子、大庭三枝、宮本賢作、若さを保つ生き方を求めて～うた・運動・食生活を通して楽しい毎日を～、福山市立女子短期大学研究教育公開センター年報、査読有、6、2009、7-15
- ⑧加納三千子、西川龍也、藤井輝明、ニューラナーク及びモンドラゴン協同組合について、福山市立女子短期大学研究教育公開センター年報、査読有、6、2009、

〔図書〕(計 7件)

- ①加納三千子、森靖雄、安川悦子、西川龍也、佐々木重綱、藤井輝明、保護から自立へ～都市農業が高齢社会を支える～、2011、栄光、53
- ②安川悦子、ボーボワールとフリーダンにおけるフェミニズムと反エイジズム～福祉国家のパラダイムチェンジ、(東海ジェンダー研究所記念論集編集委員会編、2010、『越境するジェンダー研究』、明石書店)、457-479
- ③安川悦子、森戸辰男における「理想の社会」、(安川悦子、藤井輝明、西川龍也編、『地域の力、地域の文化～多元都市「福山」の可能性』、2010、児島書店)、3-35
- ④加納三千子、「理想の社会」としての協同的コミュニティ～スペインにおけるモンドラゴンの試みをめぐる～、(安川悦子、藤井輝明、西川龍也編、『地域の力、地域

の文化～多元都市「福山」の可能性』、2010、  
児島書店)、37-58

- ⑤西川龍也、モザイクサバブと地域のサステナビリティ～ジェーンジェイコブスの「有機的な多様性」都市論を手がかりに～、(安川悦子、藤井輝明、西川龍也編、『地域の力、地域の文化～多元都市「福山」の可能性』、2010、児島書店)、59-80
- ⑥藤井輝明、「近代都市」福山の歴史的形成～江戸期から対象機にかけての殖産開発～、(安川悦子、藤井輝明、西川龍也編、『地域の力、地域の文化～多元都市「福山」の可能性』、2010、児島書店)、97-126
- ⑦安川悦子、第1章4 歴史学からのアプローチ、(大内尉義・秋山弘子編、新老年学第3版、2010、東京大学出版会)、1599-1603

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

加納 三千子 (MICHIKO KANO)  
福山市立女子短期大学・名誉教授  
研究者番号：40087929

### (2) 研究分担者

安川 悦子 (ETUKO YASUKAWA)  
福山市立女子短期大学・学長  
研究者番号：90071034

藤井 輝明 (TERUAKI FUJII)  
福山市立女子短期大学・生活学科・教授  
研究社番号：20141690

西川 龍也 (TATSUYA NISHIKAWA)  
福山市立女子短期大学・生活学科・教授  
研究者番号：90249582

平本 弘子 (HIROKO HIRAMOTO)  
福山市立女子短期大学・生活学科・教授  
研究者番号：60087939

大庭 三枝 (MIE OOBA)  
福山市立女子短期大学・保育科・准教授  
研究者番号：50413539

佐藤 俊郎 (TOSHIROU SATO)  
研究者番号：70442382

### (3) 連携研究者

宮本 賢作 (KENSAKU MIYAMOTO)  
福山市立女子短期大学・生活学科・講師  
研究者番号：70304582